

キクビスカシバの発生について

害虫名：キクビスカシバ
学名：*Nokona feralis* Leech
発生作物：キウイフルーツ

1. 発生確認の経緯及び県外での発生状況

- (1) 平成31年1月、県西地域のキウイフルーツ園で、2年生以上の枝に付着した蛹殻及び楕円形で小豆色の卵を確認した。平成31年4月、同圃場で新梢部(1年生枝)に食入するチョウ目幼虫の被害が確認され、状況からスカシバ類による加害が疑われたため、令和元年7月下旬にフラス(糞と木くずが混じったもの)排出孔が確認された枝を採集し、室内飼育により被害枝から羽化脱出した成虫を得た。鳥取大学農学部中秀司准教授に同定を依頼した結果、本県のキウイフルーツでは発生が未確認であるキクビスカシバと判明した。
- (2) 本種のキウイフルーツでの発生は、福岡県、愛媛県、佐賀県、長崎県、東京都及び栃木県で確認され、特殊報が発表されている。

2. 形態の特徴

卵は小豆色で、長径1mmの平たい楕円形をしており、中央部分がややくぼんでいる(写真1)。若齢幼虫の頭部は褐色、胴部は淡い赤褐色(写真3)、終齢幼虫の頭部は赤褐色、胴部は淡桃紫色である。成虫の開翅長は、雄が30~40mm、雌が38~45mm。前翅は赤褐色、後翅は透明である。頭部、胸部、腹部は全体的に黒色で、胸部の前端と腹部第2節に黄色の細い帯、腹部第4節に黄色の幅広い帯がある(写真5)。

3. 生態の特徴

卵は葉柄基部、枝分岐部等に産み付けられる。卵で越冬し、幼虫は4月頃にふ化する。ふ化した幼虫は新梢(1年生枝)に食入する(写真2,4)。6月頃より太い枝へ移動し、枝内部で蛹化する。9月上旬頃から羽化し、年1回発生する。羽化後の脱出孔には蛹殻が半分表面から出た格好で残される(写真6)。枝の脱出孔のある部分は、やや膨らみを帯びる。

4. 被害の特徴

4月頃、ふ化した幼虫は枝に食入し、新梢の基部や葉の着生部からフラスの排出が見られる(写真2,4)。食入部位に着生した葉の枯死、伸長抑制、食入部位から先のしおれ等が見られる。6月頃には2年生以上の枝に移動し、排出されるフラスの量も増加するため、食入部位は判別しやすくなる。

5. 防除対策

- (1) 新梢で被害を確認したら、フラスを目安にできるだけ早く被害枝(幼虫の生息部位)を除去する。
- (2) 薬剤防除は、幼虫のふ化時期(4月頃)にフェニックスフロアブルを散布するか、成虫の発生時期に、スカシバコンLを設置し、交尾を阻害する。
- (3) 剪定時には食入が疑われる枝を除去する。

表 キウイフルーツのキクビスカシバ防除に使用できる農薬（令和元年10月23日現在）

薬剤名	適用病害虫	希釈倍数・使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
フェニックスフロアブル	スカシバ類	4000倍	散布	収穫7日前まで	3回以内
スカシバコンシ	キクビスカシバ	100本/10a (8g/100本製剤)	ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け設置する。	成虫発生初期～終期	-

※農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法、注意事項等を確認の上、使用してください。



写真1 卵



写真2 若齢幼虫による食入部位。フラス（白丸囲み）とふ化後の卵殻（矢印）が残っている。



写真3 若齢幼虫



写真4 被害の様子と内部の幼虫



写真5 雌成虫



写真6 羽化後の脱出孔と蛹殻

6. 引用文献

窪田聖一ら(2017):植物防疫 第71巻 第7号. 30-33